全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	1,975	46.7%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	1,024	24.3%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	1,113	26.3%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	116	2.7%
計	4,228	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	2,176	51.6%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	1,038	24.6%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	903	21.4%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	102	2.4%
計	4,219	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	1,271	30.1%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	1,645	38.9%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	788	18.6%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	435	10.3%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	89	2.1%
計	4,228	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	825	28.3%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	2,385	81.8%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	1,600	54.9%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	1,354	46.4%
⑤ その他	392	13.4%
計	2,916	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	620	47.3%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	1,125	85.7%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	1,151	87.7%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	264	20.1%
⑤ その他	95	7.2%
計	1,312	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	1,310	31.1%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	1,605	38.2%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	769	18.3%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	443	10.5%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	81	1.9%
計	4,208	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	823	28.2%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	2,400	82.3%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	1,603	55.0%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	1,281	43.9%
⑤ その他	321	11.0%
計	2,915	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	613	47.4%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	1,104	85.4%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	1,139	88.1%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	241	18.6%
⑤ その他	88	6.8%
計	1,293	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	1,155	27.5%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	1,756	41.7%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	1,298	30.8%
計	4,209	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	2,667	64.3%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	2,953	71.2%
③ その他	135	3.3%
計	4,146	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	2,481	59.2%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	1,369	32.7%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	1,299	31.0%
④その他	424	10.1%
計	4,191	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	1,633	39.2%
② 限定を設けるべき	2,538	60.8%
計	4,171	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	1,971	77.7%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	769	30.3%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	1,711	67.4%
計	2,538	

令和３年度大学入学者選抜に関するアンケート（集計結果）

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(3)大学入学共通テスト
【選択肢】
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき

国公私

回答	国立			公立			私立		
①	13	6	33.3%	2,126	894	28.1%	777	371	35.9%
②	72.2%	7	38.9%	66.9%	1,232	38.8%	75.3%	406	39.3%
③		1	5.6%		659	20.7%		128	12.4%
④	5	2	11.1%	1,052	334	10.5%	255	99	9.6%
⑤	27.8%	2	11.1%	33.1%	59	1.9%	24.7%	28	2.7%
計	18			3,178			1,032		

警戒区域

回答	特定警戒区域 13都道府県			左記以外 34県		
①	1,384	592	27.9%	1,532	679	32.2%
②	65.3%	792	37.4%	72.6%	853	40.4%
③		405	19.1%		383	18.2%
④	735	258	12.2%	577	177	8.4%
⑤	34.7%	72	3.4%	27.4%	17	0.8%
計	2,119			2,109		

センター受験率

回答	センター試験受験率 43%以上			センター試験受験率 43%未満		
①	948	410	30.1%	1,857	810	30.3%
②	69.6%	538	39.5%	69.6%	1,047	39.2%
③		230	16.9%		515	19.3%
④	415	150	11.0%	812	248	9.3%
⑤	30.4%	35	2.6%	30.4%	49	1.8%
計	1,363			2,669		

(4) 一般選抜
【選択肢】
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき

国公私

回答	国立			公立			私立		
①	13	5	27.8%	2,130	909	28.7%	772	396	38.8%
②	72.2%	8	44.4%	67.2%	1,221	38.5%	75.6%	376	36.8%
③		1	5.6%		641	20.2%		127	12.4%
④	5	2	11.1%	1,039	343	10.8%	249	98	9.6%
⑤	27.8%	2	11.1%	32.8%	55	1.7%	24.4%	24	2.4%
計	18			3,169			1,021		

警戒区域

回答	特定警戒区域 13都道府県			左記以外 34県		
①	1,381	610	28.9%	1,534	700	33.3%
②	65.5%	771	36.6%	73.0%	834	39.7%
③		390	18.5%		379	18.0%
④	727	272	12.9%	566	171	8.1%
⑤	34.5%	65	3.1%	27.0%	16	0.8%
計	2,108			2,100		

センター受験率

回答	センター試験受験率 43%以上			センター試験受験率 43%未満		
①	954	422	30.7%	1,851	834	31.4%
②	69.4%	532	38.7%	69.7%	1,017	38.3%
③		224	16.3%		503	19.0%
④	420	162	11.8%	803	258	9.7%
⑤	30.6%	34	2.5%	30.3%	42	1.6%
計	1,374			2,654		

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えるかとの質問に対する回答状況（複数回答可）
【選択肢】
① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）
④ その他

国公私

回答	国立		公立		私立	
①	10	55.6%	1,856	58.7%	615	60.9%
②	5	27.8%	1,043	33.0%	321	31.8%
③	8	44.4%	994	31.4%	297	29.4%
④	1	5.6%	311	9.8%	112	11.1%
計	18		3,163		1,010	

警戒区域

回答	特定警戒区域 13都道府県		左記以外 34県	
①	1,168	55.6%	1,313	62.8%
②	751	35.8%	618	29.5%
③	704	33.5%	595	28.4%
④	205	9.8%	219	10.5%
計	2,099		2,092	

センター受験率

回答	センター試験受験率 43%以上		センター試験受験率 43%未満	
①	879	64.1%	1,496	56.6%
②	370	27.0%	947	35.8%
③	328	23.9%	915	34.6%
④	205	15.0%	202	7.6%
計	1,371		2,642	

（２）公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えるかとの質問に対する回答状況
【選択肢】
① 従来どおりで良い
② 限定を設けるべき

国公私

回答	国立		公立		私立	
①	6	35.3%	1,190	37.7%	437	43.7%
②	11	64.7%	1,965	62.3%	562	56.3%
計	17		3,155		999	

警戒区域

特定警戒区域 13都道府県		左記以外 34県	
795	38.1%	838	40.2%
1,292	61.9%	1,246	59.1%
2,087		2,084	

センター受験率

センター試験受験率 43%以上		センター試験受験率 43%未満	
568	41.6%	980	37.3%
796	58.4%	1,645	62.7%
1,364		2,625	

（３）令和３年度入試・一般選抜の出題範囲について、公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えるか、それとも限定を設けるべきと考えるかとの質問に対する回答として「②限定を設けるべき」を選択した理由
【選択肢】
① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする

国公私

回答	国立		公立		私立	
①	8	72.7%	1,538	78.3%	425	75.6%
②	3	27.3%	603	30.7%	163	29.0%
③	6	54.5%	1,301	66.2%	404	71.9%
計	11		1,965		562	

警戒区域

特定警戒区域 13都道府県		左記以外 34県	
1,006	77.9%	965	77.4%
385	29.8%	384	30.8%
872	67.5%	839	67.3%
1,292		1,246	

センター受験率

センター試験受験率 43%以上		センター試験受験率 43%未満	
631	79.3%	1,272	77.3%
226	28.4%	514	31.2%
562	70.6%	1,083	65.8%
796		1,645	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	123	46.2%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	52	19.5%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	81	30.5%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	10	3.8%
計	266	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	130	49.2%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	54	20.5%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	72	27.3%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	8	3.0%
計	264	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	58	22.0%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	95	36.0%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	61	23.1%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	40	15.2%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	10	3.8%
計	264	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	57	37.3%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	134	87.6%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	80	52.3%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	53	34.6%
⑤ その他	17	11.1%
計	153	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	47	42.3%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	98	88.3%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	96	86.5%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	23	20.7%
⑤ その他	5	4.5%
計	111	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	59	22.3%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	95	36.0%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	64	24.2%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	37	14.0%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	9	3.4%
計	264	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	54	35.1%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	134	87.0%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	82	53.2%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	44	28.6%
⑤ その他	16	10.4%
計	154	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	47	42.7%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	94	85.5%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	95	86.4%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	20	18.2%
⑤ その他	5	4.5%
計	110	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	56	21.1%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	119	44.9%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	90	34.0%
計	265	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	169	64.8%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	185	70.9%
③ その他	8	3.1%
計	261	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	150	57.0%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	101	38.4%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	92	35.0%
④その他	21	8.0%
計	263	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	98	37.7%
② 限定を設けるべき	162	62.3%
計	260	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	128	79.0%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	58	35.8%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	108	66.7%
計	162	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	67	52.3%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	27	21.1%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	31	24.2%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	3	2.3%
計	128	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	77	59.7%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	23	17.8%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	26	20.2%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	3	2.3%
計	129	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	38	29.5%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	53	41.1%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	21	16.3%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	15	11.6%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	2	1.6%
計	129	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	32	35.2%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	77	84.6%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	54	59.3%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	35	38.5%
⑤ その他	9	9.9%
計	91	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	16	42.1%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	31	81.6%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	34	89.5%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	6	15.8%
⑤ その他	3	7.9%
計	38	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	44	34.9%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	48	38.1%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	14	11.1%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	17	13.5%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	3	2.4%
計	126	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	31	33.7%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	79	85.9%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	54	58.7%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	31	33.7%
⑤ その他	6	6.5%
計	92	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	15	44.1%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	29	85.3%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	32	94.1%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	3	8.8%
⑤ その他	2	5.9%
計	34	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	38	29.7%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	53	41.4%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	37	28.9%
計	128	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	79	62.7%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	95	75.4%
③ その他	5	4.0%
計	126	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	82	63.6%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	40	31.0%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	37	28.7%
④その他	8	6.2%
計	129	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	53	42.4%
② 限定を設けるべき	72	57.6%
計	125	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	57	79.2%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	22	30.6%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	47	65.3%
計	72	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	61	40.4%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	37	24.5%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	49	32.5%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	4	2.6%
計	151	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	66	44.3%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	38	25.5%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	40	26.8%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	5	3.4%
計	149	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	32	21.5%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	55	36.9%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	37	24.8%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	19	12.8%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	6	4.0%
計	149	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	11	12.6%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	75	86.2%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	59	67.8%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	41	47.1%
⑤ その他	11	12.6%
計	87	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	39	62.9%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	50	80.6%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	55	88.7%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	11	17.7%
⑤ その他	6	9.7%
計	62	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	33	21.9%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	54	35.8%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	33	21.9%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	25	16.6%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	6	4.0%
計	151	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	14	16.1%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	71	81.6%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	59	67.8%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	39	44.8%
⑤ その他	9	10.3%
計	87	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	41	64.1%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	56	87.5%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	61	95.3%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	9	14.1%
⑤ その他	3	4.7%
計	64	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	45	29.8%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	53	35.1%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	53	35.1%
計	151	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	98	64.5%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	116	76.3%
③ その他	1	0.7%
計	152	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	79	52.0%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	64	42.1%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	65	42.8%
④その他	15	9.9%
計	152	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	57	38.0%
② 限定を設けるべき	93	62.0%
計	150	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	74	79.6%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	25	26.9%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	61	65.6%
計	93	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	73	47.1%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	40	25.8%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	38	24.5%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	4	2.6%
計	155	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	86	55.8%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	35	22.7%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	28	18.2%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	5	3.2%
計	154	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	49	31.4%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	63	40.4%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	29	18.6%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	11	7.1%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	4	2.6%
計	156	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	17	15.2%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	95	84.8%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	59	52.7%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	41	36.6%
⑤ その他	14	12.5%
計	112	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	20	45.5%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	40	90.9%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	39	88.6%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	9	20.5%
⑤ その他	7	15.9%
計	44	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	45	29.2%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	66	42.9%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	28	18.2%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	11	7.1%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	4	2.6%
計	154	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	21	18.9%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	93	83.8%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	62	55.9%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	39	35.1%
⑤ その他	13	11.7%
計	111	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	18	41.9%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	38	88.4%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	37	86.0%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	6	14.0%
⑤ その他	9	20.9%
計	43	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	38	24.5%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	69	44.5%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	48	31.0%
計	155	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	89	58.9%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	108	71.5%
③ その他	3	2.0%
計	151	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	79	51.3%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	51	33.1%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	64	41.6%
④その他	11	7.1%
計	154	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	56	36.6%
② 限定を設けるべき	97	63.4%
計	153	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	77	79.4%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	31	32.0%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	56	57.7%
計	97	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	125	41.1%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	62	20.4%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	107	35.2%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	10	3.3%
計	304	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	143	47.0%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	73	24.0%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	80	26.3%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	8	2.6%
計	304	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	99	32.7%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	106	35.0%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	50	16.5%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	39	12.9%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	9	3.0%
計	303	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	47	22.9%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	168	82.0%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	115	56.1%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	86	42.0%
⑤ その他	31	15.1%
計	205	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	61	62.2%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	86	87.8%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	84	85.7%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	26	26.5%
⑤ その他	8	8.2%
計	98	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	98	32.7%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	110	36.7%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	43	14.3%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	41	13.7%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	8	2.7%
計	300	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	46	22.1%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	170	81.7%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	113	54.3%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	81	38.9%
⑤ その他	27	13.0%
計	208	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	59	64.1%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	82	89.1%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	82	89.1%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	24	26.1%
⑤ その他	10	10.9%
計	92	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	99	32.9%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	94	31.2%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	108	35.9%
計	301	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	183	62.5%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	217	74.1%
③ その他	11	3.8%
計	293	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	168	56.2%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	112	37.5%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	97	32.4%
④その他	31	10.4%
計	299	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	121	41.2%
② 限定を設けるべき	173	58.8%
計	294	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	131	75.7%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	53	30.6%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	122	70.5%
計	173	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	44	24.3%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	38	21.0%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	79	43.6%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	20	11.0%
計	181	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	51	28.2%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	45	24.9%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	66	36.5%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	19	10.5%
計	181	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	30	16.5%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	50	27.5%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	41	22.5%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	38	20.9%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	23	12.6%
計	182	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	17	21.3%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	65	81.3%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	43	53.8%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	36	45.0%
⑤ その他	15	18.8%
計	80	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	47	46.1%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	92	90.2%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	89	87.3%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	30	29.4%
⑤ その他	7	6.9%
計	102	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	31	17.2%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	53	29.4%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	39	21.7%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	39	21.7%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	18	10.0%
計	180	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	15	17.9%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	69	82.1%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	49	58.3%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	31	36.9%
⑤ その他	10	11.9%
計	84	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	45	46.9%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	87	90.6%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	84	87.5%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	27	28.1%
⑤ その他	4	4.2%
計	96	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	48	26.7%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	63	35.0%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	69	38.3%
計	180	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	106	59.9%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	134	75.7%
③ その他	7	4.0%
計	177	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	96	53.6%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	68	38.0%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	66	36.9%
④その他	14	7.8%
計	179	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	67	38.3%
② 限定を設けるべき	108	61.7%
計	175	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	88	81.5%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	28	25.9%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	56	51.9%
計	108	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	21	46.7%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	14	31.1%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	10	22.2%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	45	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	22	48.9%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	15	33.3%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	7	15.6%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	1	2.2%
計	45	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	11	24.4%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	16	35.6%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	16	35.6%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	2	4.4%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	45	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	10	37.0%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	24	88.9%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	16	59.3%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	11	40.7%
⑤ その他	5	18.5%
計	27	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	7	38.9%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	16	88.9%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	16	88.9%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	6	33.3%
⑤ その他	2	11.1%
計	18	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	12	26.7%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	15	33.3%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	16	35.6%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	2	4.4%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	45	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	11	40.7%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	22	81.5%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	15	55.6%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	9	33.3%
⑤ その他	4	14.8%
計	27	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	10	55.6%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	16	88.9%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	16	88.9%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	5	27.8%
⑤ その他	2	11.1%
計	18	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	12	26.7%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	20	44.4%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	13	28.9%
計	45	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	36	80.0%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	29	64.4%
③ その他	2	4.4%
計	45	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	29	64.4%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	11	24.4%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	9	20.0%
④その他	6	13.3%
計	45	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	23	51.1%
② 限定を設けるべき	22	48.9%
計	45	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	15	68.2%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	4	18.2%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	16	72.7%
計	22	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	33	42.3%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	18	23.1%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	26	33.3%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	1	1.3%
計	78	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	38	48.7%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	19	24.4%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	20	25.6%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	1	1.3%
計	78	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	22	28.2%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	28	35.9%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	16	20.5%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	12	15.4%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	78	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	14	28.0%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	42	84.0%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	30	60.0%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	24	48.0%
⑤ その他	10	20.0%
計	50	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	15	53.6%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	23	82.1%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	25	89.3%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	5	17.9%
⑤ その他	1	3.6%
計	28	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	22	28.2%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	27	34.6%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	18	23.1%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	11	14.1%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	78	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	14	28.6%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	42	85.7%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	28	57.1%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	23	46.9%
⑤ その他	8	16.3%
計	49	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	15	51.7%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	24	82.8%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	25	86.2%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	5	17.2%
⑤ その他	0	0.0%
計	29	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	20	25.6%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	33	42.3%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	25	32.1%
計	78	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	46	61.3%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	57	76.0%
③ その他	3	4.0%
計	75	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	47	60.3%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	26	33.3%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	18	23.1%
④その他	5	6.4%
計	78	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	34	43.6%
② 限定を設けるべき	44	56.4%
計	78	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	39	88.6%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	12	27.3%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	29	65.9%
計	44	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	115	51.6%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	54	24.2%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	49	22.0%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	5	2.2%
計	223	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	126	56.0%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	52	23.1%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	43	19.1%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	4	1.8%
計	225	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	73	32.7%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	93	41.7%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	33	14.8%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	20	9.0%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	4	1.8%
計	223	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	40	24.1%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	141	84.9%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	98	59.0%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	84	50.6%
⑤ その他	27	16.3%
計	166	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	20	35.1%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	44	77.2%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	46	80.7%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	8	14.0%
⑤ その他	6	10.5%
計	57	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	81	36.0%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	84	37.3%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	35	15.6%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	21	9.3%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	4	1.8%
計	225	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	45	27.3%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	140	84.8%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	100	60.6%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	76	46.1%
⑤ その他	18	10.9%
計	165	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	19	31.7%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	44	73.3%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	51	85.0%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	9	15.0%
⑤ その他	4	6.7%
計	60	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	65	29.0%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	108	48.2%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	51	22.8%
計	224	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	154	69.1%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	154	69.1%
③ その他	11	4.9%
計	223	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	128	57.4%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	71	31.8%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	67	30.0%
④その他	25	11.2%
計	223	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	93	41.7%
② 限定を設けるべき	130	58.3%
計	223	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	102	78.5%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	35	26.9%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	95	73.1%
計	130	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	33	37.1%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	27	30.3%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	29	32.6%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	89	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	42	47.2%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	28	31.5%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	19	21.3%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	89	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	26	29.2%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	37	41.6%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	15	16.9%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	11	12.4%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	89	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	15	23.8%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	49	77.8%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	37	58.7%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	25	39.7%
⑤ その他	9	14.3%
計	63	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	15	57.7%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	24	92.3%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	25	96.2%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	1	3.8%
⑤ その他	1	3.8%
計	26	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	26	29.2%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	38	42.7%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	15	16.9%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	10	11.2%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	0	0.0%
計	89	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	16	25.0%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	48	75.0%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	34	53.1%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	27	42.2%
⑤ その他	7	10.9%
計	64	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	11	44.0%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	22	88.0%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	25	100.0%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	2	8.0%
⑤ その他	1	4.0%
計	25	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	33	37.1%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	32	36.0%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	24	27.0%
計	89	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	51	58.6%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	63	72.4%
③ その他	4	4.6%
計	87	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	50	58.1%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	29	33.7%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	28	32.6%
④その他	7	8.1%
計	86	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	23	25.8%
② 限定を設けるべき	66	74.2%
計	89	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	46	69.7%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	13	19.7%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	45	68.2%
計	66	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	77	42.1%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	40	21.9%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	54	29.5%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	12	6.6%
計	183	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	81	44.3%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	45	24.6%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	45	24.6%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	12	6.6%
計	183	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	58	31.4%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	72	38.9%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	28	15.1%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	17	9.2%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	10	5.4%
計	185	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	34	26.2%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	103	79.2%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	68	52.3%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	53	40.8%
⑤ その他	11	8.5%
計	130	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	31	56.4%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	46	83.6%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	50	90.9%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	24	43.6%
⑤ その他	4	7.3%
計	55	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	66	36.1%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	61	33.3%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	26	14.2%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	22	12.0%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	8	4.4%
計	183	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	33	26.0%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	102	80.3%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	64	50.4%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	49	38.6%
⑤ その他	9	7.1%
計	127	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	33	58.9%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	47	83.9%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	53	94.6%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	22	39.3%
⑤ その他	3	5.4%
計	56	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	52	28.4%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	61	33.3%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	70	38.3%
計	183	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	110	61.5%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	140	78.2%
③ その他	3	1.7%
計	179	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	99	54.7%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	67	37.0%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	61	33.7%
④その他	18	9.9%
計	181	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	66	36.3%
② 限定を設けるべき	116	63.7%
計	182	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	96	82.8%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	41	35.3%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	85	73.3%
計	116	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	66	38.8%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	46	27.1%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	52	30.6%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	6	3.5%
計	170	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	72	42.6%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	49	29.0%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	43	25.4%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	5	3.0%
計	169	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	48	28.4%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	71	42.0%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	27	16.0%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	20	11.8%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	3	1.8%
計	169	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	30	25.2%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	95	79.8%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	58	48.7%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	63	52.9%
⑤ その他	21	17.6%
計	119	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	25	50.0%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	40	80.0%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	41	82.0%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	13	26.0%
⑤ その他	4	8.0%
計	50	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	50	29.8%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	66	39.3%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	27	16.1%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	21	12.5%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	4	2.4%
計	168	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	27	23.3%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	97	83.6%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	58	50.0%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	59	50.9%
⑤ その他	17	14.7%
計	116	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	26	50.0%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	40	76.9%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	36	69.2%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	11	21.2%
⑤ その他	4	7.7%
計	52	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	48	28.4%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	58	34.3%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	63	37.3%
計	169	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	110	66.3%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	113	68.1%
③ その他	3	1.8%
計	166	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	92	55.1%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	52	31.1%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	51	30.5%
④その他	27	16.2%
計	167	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	58	34.3%
② 限定を設けるべき	111	65.7%
計	169	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	77	69.4%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	35	31.5%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	81	73.0%
計	111	

全国高等学校長協会令和３年度大学入試についてのアンケート調査

１． 入試日程について

今後の感染状況等によって変更あり得るという前提のもと、公表する６月の時点において、入試日程について、当初予定通りの日程で実施すべきと考えますか、それとも後ろ倒しとすべきと考えますか。

(1) 総合型選抜

	回答数	割合
① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	62	42.5%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	46	31.5%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	36	24.7%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	2	1.4%
計	146	

(2) 学校推薦型選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	70	47.9%
② 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	43	29.5%
③ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	31	21.2%
④ 現時点で③以上後ろ倒しすべき	2	1.4%
計	146	

(3)大学入学共通テスト

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	48	32.7%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	53	36.1%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	31	21.1%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	14	9.5%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	1	0.7%
計	147	

【上記(3)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	20	19.8%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	83	82.2%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	46	45.5%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	46	45.5%
⑤ その他	10	9.9%
計	101	

【上記(3)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

	回答数	割合
① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	20	43.5%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	41	89.1%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	41	89.1%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	5	10.9%
⑤ その他	4	8.7%
計	46	

(4) 一般選抜

① 現時点では、当初予定どおりの実施とすべき	43	29.7%
② 現時点では、当初予定どおりの実施とし、予定どおり実施できなかった場合の予備日の日程も明確にすべき	54	37.2%
③ 現時点で２週間程度後ろ倒しすべき	32	22.1%
④ 現時点で１か月程度後ろ倒しすべき	15	10.3%
⑤ 現時点で④以上後ろ倒しすべき	1	0.7%
計	145	

【上記(4)に「当初予定どおりの実施とすべき」と回答した(①又は②を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 学習の遅れを回復できる見込みがあるため	19	19.6%
② 今後の感染状況が予測できない中で、入試日程を変更するのは不安であるため	79	81.4%
③ 予定されていた試験日程での受験に向けて準備をしていた受験生の意欲に影響を及ぼすおそれがあるため	44	45.4%
④ 入試日程の変更は高校の学事日程に影響を及ぼすおそれがあるため	41	42.3%
⑤ その他	7	7.2%
計	97	

【上記(4)に「後ろ倒しすべき」と回答した(③～⑤を選んだ)場合、その理由（複数回答可）】

① 入試日程を変更しなければ、学習の遅れを回復できる見込みがないため	23	47.9%
② 早期に入試日程を変更することで、受験生の不安を解消するため	42	87.5%
③ 学習の遅れを回復する期間を設けることで、受験生の学習機会を保障するため	43	89.6%
④ 入試日程を変更することで、高校の学事日程を回復させるため	5	10.4%
⑤ その他	4	8.3%
計	48	

２．受験機会確保の工夫について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの追再試験を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。

	回答数	割合
① 昨年度のセンター試験と同様に本試験の１週間後に追再試験を実施し、追試験会場は２会場を設置	34	23.3%
② 追再試験の日程を本試験の１週間後から２週間後に変更し、全国に追試験会場を設置	66	45.2%
③ 今後の感染状況や臨時休業の状況に応じ、追再試験の時期を遅らせ本試験と同等に位置付け実施	46	31.5%
計	146	

(2)公表する６月の時点において、各大学の一般選抜の追試験等を活用して受験機会の確保を図る場合、どのような方法が適当と考えますか。（複数選択可）

① 追試験の設定	84	58.7%
② 追加の受験料を徴収せずに、別日程の受験を認める	99	69.2%
③ その他	4	2.8%
計	143	

３．共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について

(1)公表する６月の時点において、共通テストの出題科目のうち、第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目に関し、大学の判断でどのような配慮が示されるべきと考えますか。（複数選択可）

① 現時点では既に各大学が予定している方法が適当	69	47.3%
② 地歴・公民、理科について、2科目必要としている場合、1科目に減じることを可とする	59	40.4%
③ 地歴・公民、理科について、特定の科目を指定している場合、指定科目以外の科目への変更を可とする（例えば、「物理」「化学」を指定している場合、「物理基礎」「化学基礎」への変更）	49	33.6%
④その他	17	11.6%
計	146	

(2)公表する６月の時点において、大学の一般選抜の出題範囲に関し、従来どおり全範囲からで良いと考えますか、それとも限定を設けるべきと考えますか。

① 従来どおりで良い	46	31.9%
② 限定を設けるべき	98	68.1%
計	144	

(3)上記（２）②を選んだ場合、どのような限定を設けるべきと考えますか。（複数選択可）

① 多様な履修形態に対応するため、可能な範囲で選択問題を設定する	76	77.6%
② 「発展的な学習内容」の部分からは出題しない	28	28.6%
③ 第３学年で履修することが多い地理歴史、公民、理科の科目について、特定の単元については出題しないことを明確にする	71	72.4%
計	98	